

第 28 回ふれあいトーク
(若者に魅力あるまちづくり) 会議記録〈要旨〉

- 1、日 時 平成 28 年 2 月 25 日（木） 午後 6 時 30 分から 8 時
- 2、場 所 高岡市中心商店街活性化センター わろんが 3F 交流サロン
- 3、出席者 高岡市在住もしくは高岡市内に通勤・通学する 20 歳前後の若者 13 名
市長、都市経営課長、広報統計課長

4、会議次第

- (1) 市長挨拶
- (2) 「未来高岡」総合戦略の説明
- (3) 自己紹介・高岡市のイメージ
- (4) 意見交換
- ・ 若者が楽しめる場所について
 - ・ 公共交通機関について
 - ・ 若者の定住促進について

.....

高岡市のイメージ

参加者

- ・ 暮らしやすいが、交通の便が悪く、車の免許がなければ就職するのに不便であり、その点は住みにくいと感じる。

参加者

- ・ 高岡駅南口に住んでおり、家の周りは駅や店舗も多いので住みやすいと思うが、駅から遠い所に住んでいる友人にとっては通学も大変であり、そこまで暮らしやすくないのではないかと思います。災害が少ないのは良い点である。

参加者

- ・ スポーツ施設が多くて良いと思う。春には古城公園で花見をしたり、家族と市内の公園を回るなど楽しいところがたくさんあると思う。

参加者

- ・ 出身高校には国際交流科があったが、海外から 1 年中来訪者があり、様々な人達に大仏や土蔵造りの町並みなど紹介する機会があった。高岡は伝統があり、世界に誇れるまちだと思う。

参加者

- ・ 野球をしているため、ボールパークの設備が整っているのが印象的である。遊ぶ場所がイオンモール以外にないというイメージが強く、遊べる場所が増えれば良いと思う。

参加者

- ・ 出身は新潟県上越市であり、大学に通うため高岡に来たが、地元よりも高岡の方が好きである。しかし交通の便が悪いところがある。高岡に好きな所は沢山あるが、

「高岡のどこがいいのか」と聞かれると中々自信を持って答えることができない。

参加者

- 瑞龍寺や雨晴海岸といった全国に誇れる観光地があるが、若者が遊べるような場所がイオンモールしかないと思うので、若者が集えるような場所があれば良いと思う。

参加者

- たいへん平和なまちである。また高岡にはスポーツをもっと盛り上げてほしいと思う。

参加者

- 瑞龍寺や高岡大仏などの歴史と伝統、古城公園の桜や雨晴海岸の自然など、たくさん紹介するところがあると思う。しかし人口減少や高齢化のため地域包括ケアをしっかりとしなければいけない点や、車を持たない人のための2次交通の整備など課題もあると思う。

参加者

- 京都の大学に進学した時は、高岡について特に印象はなかったが、地元から離れてみると懐かしく思うようになり、富山県内で就職した。高岡には福岡町や伏木などいろいろなところがある。伏木の勝興寺や福岡町の菅笠など、語り切れない文化があるまちである。

参加者

- 小学校までは東京で暮らしており、引っ越してきたときは田んぼばかりだと思っていたが、最近ではものがない事の良さや方言の温かさが分かるようになってきた。中田に住んでいるが、中田では「高岡に行って来た」と、高岡の外にいるかのような言い方がされる。

参加者

- 伏木出身・在住だが、高岡の中心部で行われていることは遠い都会でやっている事のように思われ、一体感が感じられなかった。しかし今になって自分も高岡市民の一人なんだろうと思うようになった。高岡市は合併もした広い市なので、いろいろな文化があり、それを一つにまとめて頑張っていこうとするのは大変かもしれないが、高岡市民としての一体感をもっと持てるようになればいいと思う。

参加者

- 黒部市から引っ越してきたが、駅の近くに住むのは初めてだったので、歩ける範囲にお店が多く便利だと思った。黒部市で学生だった頃はお小遣いをもって遊びに行く場所は富山市だった。北陸新幹線開業は嬉しい出来事だったが、高岡駅を利用する観光客が少なくなった気がしてさみしい思いもある。高岡には若者が遊びにきたいという魅力的なまちというよりは、味わい深いまちだと思う。

意見交換

『若者が楽しめる場所について』

参加者

- ・ 友達とカラオケに行ったり、カフェやレストランに食事に行くことがある。

参加者

- ・ 個人的にはジムなどに行くことがあるが、遊ぶ場所はイオンモール以外には特にな
いと思う。

参加者

- ・ 暖かい時期だけだが、高岡駅前や古城公園は1日中遊べて楽しいと思う。

参加者

- ・ 市内の美味しいお店を回ると楽しい。暖かい時期にはおとぎの森公園や古城公園な
どが無料で使えて良いと思う。

参加者

- ・ 「遊び」は人によって違うと思うが、遊びに行く時はイオンモール以外に行くこと
の方が多いのではないか。イオンモールはその1か所に行くだけで買い物も食事も
でき、いろいろなものがそろっているののでつい行ってしまうが、遊ぼうと思えば古
城公園でも遊べるのではないか。

参加者

- ・ 運動が好きな人はおとぎの森公園などで遊べると思うが、普通に遊ぶとしたらイオ
ンモールしか思いつかない。

参加者

- ・ 遊びに行く時は迷わず金沢に行く。高岡にも金沢にあるラウンドワンのような屋内
型の複合レジャー施設があればいい。

参加者

- ・ 図書館によく行く。高岡にも中央図書館があるが、県立図書館に比べれば規模が小
さいので、中央図書館の規模を大きくしてほしい。

参加者

- ・ 遊ぶ場所と言えばイオンモールしかないと思っていたが、実際はレストランで友人
と話したり、映画を見にいたりしている。また雨晴海岸など様々な場所に行って
いたが、イオンモールに行くことと比較すると、「観光」と捉えてしまう。やはり
遊ぶと言うとイオンモールというイメージがある。
- ・ 夜10時以降閉店してしまう店が多く、遊ぶ時間が制限されてしまう。アルバイト
が終わってからだと遊ぶ場所がないので、長い時間開いている場所があれば良い。

市長

- ・ 人が集まる場所にはいろいろなものができるが、いろいろな楽しみ方があるという
ことが、魅力的なのだろうと思う。高岡にも時間を過ごすことができる場所はたく
さんあるが、一番利用されている場所は古城公園で、様々な形で利用されている。
朝ジョギングしている人も多く、距離標を設置してほしいという声もある。昔は堀
に手漕ぎボートも設置してあり、それも楽しみの一つだった。人それぞれ楽しみ方
はあると思うが、いろいろな場所に人が集まり、時間を過ごせる場所を作ってい

たい。

- ジムなどスポーツ施設も数が多いと思うが、グループだけでなく一人でも利用できる施設があれば良いと思う。若い人達が魅力を感じ、行きたいと思うところは、何かの拠点やイベント、場所など様々あると思うが、それに応じたものがそろっていれば良いと思う。

『公共交通機関について』

参加者

- 公共交通機関を普段使わない方は、どうやって移動しているのか。

参加者

- 普段は車で通学し、食事に行ったりもしている。

参加者

- 積極的に電車に乗りたいと思っている。例えば友人と金沢に遊びに行く時も電車で行けば、移動の間も話ができて楽しいと思う。

参加者

- 良く公共交通機関を利用するという方は、何を利用しているのか。

参加者

- 基本的に車で移動しているが、万葉線の沿線に住んでいるため、高岡駅周辺で食事会があった時などは万葉線をよく使っている。

参加者

- 伏木も昔は路面電車が通っていたらしいが、今は通らなくなってしまった。氷見線だけでは本数が少なくあまり利用できない。万葉線沿いの人はとても羨ましい。

参加者

- 最初は自宅の中田から戸出の大学への通学に自転車を利用していたが、最近はおっぱら車を利用している。もし公共交通機関を利用するとしたらバスだが、歩いたほうが早いと思う。

市長

- 確かに中田から戸出への移動は大変である。同じ高岡市なのに、中田地域からのバスは、一度射水市を通らないと高岡のまちなかに行けなかったり、一度高岡のまちなかを通らないと戸出に行けない状況であり、不便であることは認識している。

都市経営課長

- 本日の参加者の中で車の免許を持っていない方はいるか。もし持っていない場合公共交通機関のみを利用しているのか。

参加者

- 免許を持っていないため、公共交通機関だけで移動しているが非常に大変である。

都市経営課長

- 確かに車があると便利だが、車を持っている方は公共交通機関の必要性は感じているか。全く車を利用しないという方はいるか。

参加者

- 大雪の日などは電車を利用したい。

市長

- 公共交通機関を利用する場合は何を利用するのか。例えば富山大学芸術文化学部のキャンパスまでバスが運行しているが、バスを利用することはあるか。

参加者

- バスは運行しているが、平日は高岡駅から大学方面へ行くバスが夜7時台で終わってしまうので不便な場合がある。

参加者

- 大学へは毎日バスを利用して通学している。また実家へ帰るのにあいの風鉄道も利用している。広小路近辺で用事がある時は万葉線も利用している。しかし車を持っていないので、積極的に利用しているというよりは、公共交通機関を利用するしかない状況である。利用人数が少ないため本数が減らされているのは仕方ないと思うが不満はある。

参加者

- 車で移動すると渋滞にあうことがあるが、そういう時に急いで事故にあう可能性もある。電車を利用すれば時間通りに着くし、もし電車が遅れて遅刻しても不可抗力だと思える面もある。

市長

- 交通手段については非常に悩ましい。コミュニティバスはこまめに市内を巡っているが、中心市街地の外に向けては運行していない。公共交通機関も中心市街地から離れればどんどん少なくなってくる。バスは到着時刻が読めないという点もあるが、まずは路線をしっかりと確保していくことが大事である。もともと高岡駅から駅南方面についてはバス路線があまり充実していなかったため、新高岡駅ができたときに、高岡駅止まりのバスをすべて新高岡駅行きにしてもらった。高岡駅と新高岡駅間はバスの運行が充実し接続が良くなっているが、遠方から新高岡駅へ接続するバスはまだ改善していかなければならないため、現在バスの路線を組みなおしている最中である。
- これまで公共交通の面では、新幹線を利用して県外へ向かう方々が、スムーズに新高岡駅まで到着できるよう重点的に取り組んできたが、今後は、新幹線を利用した県外からの来訪者が、どのようにすれば市内の目的地へスムーズに行けるのかを考えていきたい。
- 今後高齢になって免許を返納する方も増えてくるため、その対策も必要となってくる。現在対応策としてコミュニティバスを走らせているが、沿線の住民によってバスを利用して食事に行くという企画も行われており、公共交通機関を使って移動するという意識を広げていきたい。そのためにも公共交通機関は不便であるというイメージを返上したい。

『若者の定住促進について（高岡に何が必要か）』

参加者

- 国家試験の受験のため、中央図書館で勉強しようとしても、高校生が多く集中できなかった。誰でも勉強できる場所がもっと増えればよいと思う。

参加者

- 今車で通学しているが、除雪をもっとしっかり行ってほしい。車が渋滞し学校に遅れたり、車がぶつかりそうになって危険である。

参加者

- 遊ぶ場所をもっと増やせばいいのではないか。金沢には金沢フォーラスやラウンドワンという若い人を引き付ける施設が2つもあるので、高岡もイオンモール以外にも一つ屋内型の複合レジャー施設などを作ればもっと人が増え、充実して過ごせるのではないか。

市長

- 誰もが満足するというのは難しいが、楽しく過ごせる場所が必要であるし、また楽しい場所を見つける努力も大事だと思う。行政としても、楽しくしようとしている場所があるというメッセージを打ち出す必要性を感じる。働く場所については総合戦略でも「稼ぐ力」を大事にしており、稼げる会社をもっと出てくるようにしたい。

参加者

- 以前テレビで、関東地方での「お試し住居」というものを放送していた。アパートなどを無料で貸し出し、お試しで住むという企画だが大変成功したと聞く。施設をたくさん作ったり、子育てや環境の充実はどの市町村でもやっているのだから、同じものが成功するとは限らないが、高岡でも新しいことにもっと挑戦してほしい。遊びに来てもらうのではなく定住してもらう場合は、「この施設があるから住みたい」「こんな人がいるから住みたい」と思ってもらうことが重要ではないか。

市長

- 良い環境も必要だが、こんな人がいるから住みたいと思わせる事は一番大事で、そういう人との出会いがあるまちにしていきたい。お試し住居という意見もあったが、定住促進は何年も前から行われており、定住する側も受け入れる側も納得できるまでしっかり話し合っているところがうまくいくことから、高岡もそのようにしていきたい。最近高岡の雰囲気味わってもらえるような場所が出てきており、そのような場所で高岡の人と触れ合い、住んでみたいと思える気持ちをもってもらうことが定住を成功させる秘訣ではないか。押しつけでは好きになってもらえないので、市全体で様々な取り組みを行い、人と触れ合える場面をどんどん作っていきたい。

参加者

- 働く場所があれば定住促進につながるのではないか。高岡には働く場所は沢山あるが、株式会社能作のような世界に通じる企業をもっと増やせばいいのではないか。また会社の近くに住んだ方が便利なので、働く人の住環境の整備も考えてはどうか。

参加者

- 高岡の事を好きにならなければ、高岡に定住しないと思う。みんな高校時代の体育祭などで楽しい思い出や団結した思い出があると思うが、高岡市という団体で、ほかの市と競ってみたり、学園祭のような催しをすれば、高岡の良さを実感でき、高岡の事を好きになってくれるのではないか。私はスポーツが好きなため、スポーツに関するイベントをもっと増やし、スポーツ施設も増やしていけばいいと思う。

参加者

- 富山大学芸術文化学部にはいろいろなところから学生がきているが、卒業した後も高岡に残った先輩を見ていると、やりたいことがあって自分から動き、高岡の職人のもとで活動しようという人など、地元の人と深くつながっている人が多いと感じる。いまだに高岡では芸術文化学部の事が知られておらず、「高岡短大」としか見られていない。そうではなく、市民みんなで芸術文化学部の学生を歓迎する雰囲気にしてほしい。市民と学生のつながりをもっと深くするきっかけがあれば、より親密なつながりに発展する。高岡のお母さんのような人ができれば定住への流れができるのではないか。

市長

- 本日の参加者も、学校の実習などで地元の人と関わる機会があると思うが、富山大学芸術文化学部では学生がまちなかのイベントなどに参加してくれていて大変うれしく思う。高岡法科大学にもまちなかに関わってくれるサークルがあるし、各看護専門学校や富山福祉短期大学でも地域の施設とかかわりを持ってきていると思う。これからもまちへ飛び出す学生という流れを継続し、その中で自分にとって楽しい場所を見つけてもらえればと思う。今土蔵造りの建物への新規出店や、たかおか軒下マルシェなど、まちなかを活性化しようという活動が行われているので、挑戦してほしい。
- 高岡は住みやすいところだと思っているが、それだけでいいというわけではなく、これからももっと良くしようと挑戦していく気持ちが大事である。高岡は何かを求めてきたまち、挑戦し続けてきたまちであり、本日の参加者にもこの高岡で自分の居場所を見つけられるよう努力していただければと思う。

以上